

扇町プラザ クリエイティブな都市型産業の原動力をフォローアップ

印刷・放送・広告関連産業から派生した企業やクリエイターにより、創造産業集積が形成されている扇町地区。この扇町プラザでは、同じビルに立地する大阪市の創造産業インキュベーター「mebic扇町」との連携などにより、大阪ならではの人のつながりを大事にした創造産業の発展を、実践的研究を通じて支援しています。

クリエイティブクラスが働きやすい都心再生を探る

扇町プラザでは5月14日から15日にかけて、扇町インキュベーションプラザ（Mebic扇町）、大阪市経済局による、東京都心部における、民間主導での創造ビジネス拠点のモデルケースに関する調査への協力を行った。高度情報化の普及によって、様々な働き方が生まれている現在、これら新しい働き方に対応したオフィス提供のビジネスが東京では民間主導で開発され続けており、今回の調査は、クリエイティブならびに文化関連産業における成功事例を筆者が選び実施した。

本調査において、クリエイターが事業立地として好む物件は、同じく30・40歳代を中心とする知識集約型の仕事を行う事業者にも好まれる物件であり、オフィスとしての個性と界隈の魅力がクリエイターだけでなく独立し始めた新たな世代におけるライフスタイルとして定着を始めている段階を迎えていることが明らかになった。特に東日本橋・神田地区においては、これらクリエイティブな要望に対応できる不動産業が定着し、渋谷・青山の対抗軸としてのブランドが生まれ始め、新たに起業したギャラリーやショップ、飲食を目指して、平日の昼間であっても若者の行楽客が徘徊し、賑わいが創出し始めている状況を目の当たりにした。

これら歴史的建造物に負わない戦後物件による魅力の創出は、目黒の住宅地にありながら多くの顧客が海外からの富裕者層に占められるホテル、クラスカのように、デザイナーやアーティストによるクリエイティブが賑わいの創出のキーとなる状況がライフスタイルとして一般化し始めていることを示している。 << 岡田智博（扇町プラザRA）

クリエイティブクラスが働きやすい都心再生を探る



「デザインイースト00」でのシンポジウム
(中央=佐々木雅幸(都市研究プラザ所長))

2009年秋、「デザインイースト00」など様々な創造産業振興に向けたイベントが民間主導や行政とのパートナーシップで新たに大阪から生まれ始めている。これら大阪独自の創造産業の盛り上げの気運を支援するため、大阪市経済局は「クリエイティブストリームオオサカ」という創造産業のブランディングキャンペーンを9月より開始している。

扇町プラザは「大阪地場の担い手が活きる創造産業クラスターの形成」をテーマに、「クリエイティブストリームオオサカ」に到るコンセプトの形成や、イベントの開催を実現できる、デザイン分野を中心とする担い手間のネットワークづくりに向けた支援を通じて、2008年秋以降バックアップを続けてきた。

今後、「べちゃくちゃ大阪」など様々なクリエイティブ分野の担い手が交流できるプラットフォーム形成促進企画を扇町プラザから「クリエイティブストリーム」に投入することで、気運だけで終わらない流れづくりに取り組んでいきたい。

■ 岡田智博(扇町プラザRA)